

千刈狸の呟き

～銀行封筒と「メタ認知」～

月影の狸

つい最近、地元のとある銀行の支店長さんと話をしていた時、昨年はいろいろな事に気付けた年でもあったという話題から、ATMの脇に置いてある現金を入れる銀行封筒の話になった。

「昨年の始め、コロナで騒然となった頃はATMの銀行封筒を足しても足してもすぐなくなっていました。沢山あると、ついもう少し頂こうと、持って行ってしまおうのだろうと考えて、十数枚程度にしてみたところへ、本店からの視察があり、何故こんなに少ないのかと指摘されてしまい、それから試行錯誤してみても、ケースの三分の二程度置いておくと自然に消費されているようだと分かり、今は落ち着いています。市民の気持ちは、そんな物にも反映されるのですかね。」

それを聴き、私はいろいろな事を思った。ティッシュペーパーやマスクが店舗から姿を消した状況下では、ご自由にどうぞとなればつい溜め込んでおこうという心理になりやすいのではないかと。一杯あるから少しぐらい頂いても問題ないだろうと考えてしまうのかもしれないし、実際現金をおろして、今必要なのだから正当な事だと。実は私も、支払いに使用するために余分に貰ってきたこともあったので、決して良い事ではないけれども許容範囲としてもらおう。

ところが、その後事情が違う人達がいるという事を知った。つまり封筒が手元に無いので無料の封筒を、貰いに行くというものだ。ATMそのものには全く用がなく封筒だけ頂いてくるのだ。驚くのは本当にそれを封筒代わりに使用し、切手を貼ってポストに入れてしまう事だ。絶対悪いという事ではないが、何かおかしい。何かひっかかる。

デパ地下の試食コーナーで栄養を補充するとか毎日日本屋で立ち読みするが買わないというのは、ちょっと違う気がする。もっと凄いのは、頂いてきたレアな銀行封筒を転売したり、オークションに出したりする人もいるという。置いてある意図に明らかに反する場合に、窃盗罪に問われるという。スーパーで買い物もせず、食品保存用の氷12キロを持参した袋に入れてもち去ろうとした者が、現行犯で逮捕されたともあった。コソコソしてない単なるドロボーだ。

どうして人によってこんなにも思考や判断や行動形態が違うのだろうと考えていた時に「メタ認知能力」の違いによるのではないかという記事を

見つけた。

「メタ（高度な）認知」とは、自分をもう一人の自分が客観的に捉え、評価し、コントロールする事である。自分を自分で俯瞰する事で、その時の状況を客観的に捉えて、相手の立場を理解した上で適切な対応が出来たり、どうしたら諸問題により良く取り組めるか自分の経験や反省点から導き出したり、誤解を生むのではないかという事を慎んだり、人として恥ずかしいと思う事は踏み止まれる冷静で柔軟に判断し行動できる能力を「メタ認知能力」と言うらしい。

人は自分の欠点や苦手な事に目を背けてしまいがちであるが、むしろそれをメタ認知し改善できるように意識的に行動する事で、次第に変容していくものである。思い込み、決めつけ、正しさのみを強要する事、マスコミの報道に振りまわされ続けられれば、あれこれと考える必要がなく楽なので、脳は開店休業状態となって危険な発想や行動に陥りやすい。

「メタ認知能力」の低い人の特徴とされるのは、場当たり的で感情に任せた行動をしがちで、相手の立場など考えず、想像もせず一方的な行動をとってしまう。思い込みが激しく自分が他人からどう見られているのか自分で把握できないため、問題となる行動を是正できない。達成感が上手く得られないので自己肯定感が低かったり、成長意欲を失ってしまいがちになるなど、社会においては、生きづらそうなイメージだ。そういう障害を持っている人の事ではない。

災害時や昨年からの国難の時には、「メタ認知」能力に優れた人が一人でも多い方が、社会は安全で安心だろう。案外「メタ認知」とか難しい事ではなく、私達が安心して暮らしているこの地域の人々などは、もともとそんな風に物事を捉え、行動しているのかも知れない。

最後に「メタ認知」の達人と言われている「イチロー」の言葉を付記したい。

「自分の斜め上にはもう一人の自分がいて、その目で自分がしっかりと、地に足がついているかどうか、ちゃんと見ていなければならない。」

—とあるインタビューに答えて—